

JAPAN ICOMOS / INFORMATION

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES

JAPANESE NATIONAL COMMITTEE 日本イコモス国内委員会

6期—12号



2006.12.09

CONTENTS ♣

はじめに／前野まさる 01

From the President / Masaru MAENO

2006年次第3回拡大理事会報告(9/16)／赤坂 信 02
Reports of the 3rd Meeting of the Executive Board, 2006
Makoto AKASAKA

ICAHMの日本語訳について／小野 昭、岸本雅敏 05
On the Japanese translation of ICAHM
Akira ONO, Masahiro KISHIMOTO

文化的景観ISCイコモス・イフラの報告／杉尾伸太郎 06
Report of the International Scientific Committee
Cultural Landscapes ICOMOS-IFLA / Shintaro SUGIO

考古遺産管理ISC：西安総会以後の動き／小野 昭、岸本雅敏 06
ICAHM : Current situation after the Xi'an General Assembly
Akira ONO, Masahiro KISHIMOTO

第15回国際木の委員会報告／伊藤延男、土本俊和、本田智子 07
Report of the 15th IIWC
Nobuo ITO, Toshikazu TSUCHIMOTO, Satoko HONDA

歴史的建築物の構造補強と解析に関するISC活動報告／花里利一 09
Report of ISCARSAH on Structural Reinforcement and the Analyses of Historic Buildings / Toshikazu HANAZATO

「西安宣言」1周年記念の国際シンポジウム開催される／西村幸夫 10
International Symposium for the First Anniversary of the "Xi'an Declaration" / Yukio NISHIMURA

文化遺産と都市開発の課題検討小委員会報告：鞆と白川について 10
益田兼房
Reports on Tomo and Shirakawa by the Working Group of
"Cultural Heritage and City Development" / Kanefusa MASUDA

お知らせ 12
Announcement

事務局日誌 14
Diary

はじめに
前野まさる



早いもので、今年も残りが少なくなってまいりました。今年には昨年原爆ドーム、鞆の浦問題を引きずり、さらにICOMOSではSETTINGの問題が厳しく論議されるようになってまいりました。広島原爆ドームのバッファゾーン内高層建築問題も、日本イコモス国内委員会は今年5月16日に懸念表明を広島市と議会にいたしました。広島市もバッファゾーン内の高さ規制を検討している中で、またも前記建築のそばに中層建築が建てられようとしている由です。

イコモスの世界遺産審査でも世界遺産のSETTINGや管理運営については厳しく、チェックしています。世界遺産は観光資源として強力なため、つつい力をかけ過ぎ、世界遺産の環境や住民生活を損なう事例が伝えられています。地方都市の都市景観条例、都市計画条例などと世界遺産のコアゾーン、バッファゾーン条件との整合性を得ない状態のものもあり、問題になった事例もありました。こうした点を指摘するのもイコモスの役割かとも感じています。

今年の12月で日本イコモス国内委員会の委員長、理事、監事の3年間の任期は終わります。次期の方々に多くの宿題を残したのは心残りではありますが、3年間ご苦労さまでした。

2006年次第3回理事会(拡大理事会)記録

2006年次第3回理事会(拡大理事会)が、去る2006年9月16日(土)14時から20時にわたって日本イコモス事務局(東京都千代田区/文化財保存計画協会会議室)で開催された。出席者は、委員長:前野まさる、副委員長:杉尾伸太郎、事務局長:矢野和之、理事:赤坂 信、五十嵐ジャンヌ、稲葉信子、岡田保良(本部執行委員)、小野 昭、河野俊行、杉尾邦江、西浦忠輝、渡邊保弘、山田幸正、顧問:石井 昭の各氏が出席、事務局から秋枝、山内両氏が陪席した。報告事項、審議事項及び協議事項は以下の通りである。

報告事項

1. 2006年次第3回拡大理事会報告

配布されたJAPAN ICOMOS/INFORMATION誌第6期11号に基づき、前野委員長より、その概要が報告された。

2. 日本イコモス国内委員会会員数

総数286名、維持会員13社(2006年8月21日現在)。前野委員長から報告。

3. 諸会議報告

■ ICOMOSのISC(国際学術委員会)関係報告

(1) CIVVIH / 歴史的都市集落委員会 ポーランド、ウチ市で開催。2006年6月28日から7月1日まで。書面による報告。(福川裕一)

(2) ICOMOS-CIAV / 鞆の浦問題:福山市長の強硬な姿勢は不変。去る5月16日に広島市長、市議会議長に提出した日本イコモス国内委員会の懸念表明をしたことをICOMOS委員長ベツェット氏に報告した。(前野まさる)

(3) WOOD / このたび木の委員会のVoting Memberとなった伊藤は、エゲル・西安プリンシプルズについて不備を発見し、会長にはノートで(9月10日送付)、アラオズ副会長に

は面会し(7月7日)意見を述べた。書面による報告。

(伊藤延男)

なお、木のISCは2006年9月18日から23日までイスタンブールで開催される。

(4) CIIC / 会議が2006年11月14日から17日までスペインで行なわれる事になり、テーマは「鉱山都市と工業都市に係るカルチュラルルートの普遍的価値の重要性とインパクトについて」。杉尾邦江委員は出席の予定。(杉尾邦江)

(5) ICOMOS-IFLA / 歴史的庭園及び文化的景観ISCでは2006年4月29日にコインブラで開催された「歴史的庭園及び文化的景観国際委員会」で、その名称を変更することを決定し、すでにイコモス本部に届出が受理された。

(杉尾伸太郎)

(6) アジア太平洋地域会議 / 6月10日から13日まで韓国安東市及び慶州市で開催され、その間河回民俗村、良洞民俗村の保存状況を視察した。

(前野まさる)《先号インフォメーション誌6-11号p.5》

(7) ICOMOS本部より各国イコモス国内委員会の状況調査の報告 / EdinburghのAdvisory Committeeで各国のイコモス国内委員会に向けてアンケート「What are the most important issues facing Heritage Conservation and Protection in your country over the next 5-15 years?」が実施され、その結果が報告された。

(8) Edinburgh諮問委員会報告 / 9月8日のミニ・シンポジウムに始まり、9日は終日Scientific Councilに充てられ、10、11両日に本会議及び地域会議を開催。諮問委員会の正副委員長選挙があり、英国のJ. Hurd氏が新委員長に選出された。(前野まさる)

(9) 執行委員会報告 / 本部の執行委員会は、例年1月にパリの事務局で、9月に上記諮問委員会に合わせて世界各地で(今年はEdinburgh)開催される。今年1月の会は、13日から17日、ユネスコに申請された世界文化遺産候補の審査が中心。9月の会は、諮問委員会の議事を受けて12、13両日に開催。(岡田保良)

(10) 西安宣言1周年記念シンポジウム / 10月20～21日に中国西安市で開催。

《インフォメーション誌本号に西村幸夫委員が寄稿》



■ 小委員会報告

(1) 第1小委員会(憲章小委員会) 主査:藤井

2006年6月28日、東大工学部1号館藤井研究室で会議を開いた。会議での報告はなし。

(2) 第4小委員会(世界遺産小委員会) 主査:稲葉

世界遺産小委員会は、2006年3月に、日本ユネスコ信託基金その他により進行中の世界遺産パーミヤン保存事業について、特にそのうちの保存管理計画策定作業について研究会を開催した。世界遺産小委員会の発足時の目的は、無形の価値をテーマにジンバブエで開催されたイコモス総会への対処であった。小委員会の今後の目的について(2006.09.16に開催された)理事会で話し合った結果、無形遺産条約が発効したこともあり、当該条約中の文化空間と世界遺産条約の文化的景観などの関係が今後、重要な課題になっていくことが想定される。したがって、引き続き世界遺産条約における無形の価値について考えていくことが望ましいなどの意見が出された。

(3) 第5小委員会(プロヴェイフ旧市街保存事業協力班)

主査:石井

UNESCO/Japan Trust FundによるAncient Plovdiv Conservation Projectは開始直後の一昨年(2004年)、ユネスコの機構改革に伴って10ヶ月以上に及ぶ遅延を生じたが、昨年(05年)2月以降、ほぼ順調に進展して今日に至った。5棟の家屋はすでに修復が終わり、残る3棟(Bayatova, Bakalova, Klianty)では明年末の完成をめざして修復作業が続いている。ICOMOS Joint Working Groupの本年次活動を略記すれば次の通り。①第1回現地会議(3月29日～4月4日)。第5小委から麓・石井の両名が出席した。②若手専門家と学生を対象とする実務研修(6月26日～9月1日)。ブルガリア側の委員諸氏が交替で指導に当たり、最後の1週間、第5小委から麓委員が参加した。③文化無償援助の再申請(8月24日)。Ancient Plovdiv Reserve Enhancement Projectに対する日本政府の無償援助を期待して、在ブルガリア日本大使館の助言に従い、新たな申請書を作成・提出した。④次回現地会議(11月13日～17日)。現在、議案書を準備中。第5小委から前野・石井の両名が出席する予定。会議では当日配布された資料で今後の予定が示された。

(4) 第6小委員会(文化遺産と都市開発の課題検討小委員会) 主査:益田

2006年7月19日、東大工学部都市工学科西村研究室で会議を行なった。益田委員が不在のため、矢野委員が報告した。当日配布された資料の内容は、インフォメーション誌本号にも掲載されているので参照されたい。

■ 共催、後援等

(1) 特定非営利活動法人文化財保存支援機構 理事長三輪嘉六氏より「タイ国世界遺産遺跡スタディツアー後援のお願い」の依頼があり、各理事にメールでご承認の依頼をした。後援承認通知7月3日送付。

(2) 平成18年世界遺産熊野古道保存管理事業「座談会 文化的景観から見た熊野古道」の共催7月30日開催 各理事にメールで承認依頼。共催承認通知7月19日送付。

審議事項

1. 入退会者

入会者

個人会員

氏名	勤務先	専門分野	推薦者
富士川一裕	独人間都市研究所 代表取締役	都市再開発	矢野和之・甲斐章子
門林理恵子	独立行政法人情報通 信研究機構知識創成 コミュニケーションセン ター主任研究員	情報工学の文化 財分野への応用	高瀬裕・山田修
仲野 浩		日本古代史	前野まさる・矢野和之
国広ジョージ	国土館大学工学部 教授	建築意匠 建築計画	前野まさる・岡田保良
是澤紀子	東京藝術大学大学院 美術研究科文化財保 存学専攻保存修復建 造物研究室 教育研 究助手	文化財保存学	清水真一・稲葉信子

国際維持会員

団体名	代表者名	推薦者
善光寺の世界遺産登録をすすめる会	仁科恵敏	鈴木博之・土本俊和

国際維持会員については、継続審議となった。

退会者 なし

日本イコモス国内委員会 会員数（今回の入会者を含む）

個人 291名 維持会員 13社

2. 会費未納の現状

個人会員

2006年未納 18名 ×1 = 18

2005-6年未納 3名 ×2 = 6

2004-6年未納 1名 ×3 = 3

2003-6年未納 1名 ×4 = 4

2002-6年未納 1名 ×5 = 5

維持会員

2006年未納 1社 ×1 = 5

未納額 計 41万円

3. パリ本部への会員費送金

2006年7月24日、合計US\$10,660（送金手数料含めて1,257,902円）を送金した。送金した会費：個人会員276名分（2006年5月12日本部へ会員数を申告する時点で、3年以上の滞納がなかった会員数）

協議事項

(1) 外国人のICOMOS維持会員入会希望者 Dr. Hari Srinivas 神戸在住：事務局から連絡したが、その後、本人からの返答なし。

(2) 海外からの保存支援嘆願について：フィリピンのカトリック教会保存、レバノンとイスラエルの文化遺産保護の嘆願書が紹介された。

(3) 日本イコモス国内委員会のホームページの立ち上げについて：ホームページ作成の見積もりを取り、山田幸正委員長を中心に実施に向けて作業が進められていることが報告された。

(4) 石見銀山の Evaluation Mission の接待と日本イコモス国内委員会の石見銀山の評価：石見銀山の評価のための派遣に関する文書が資料として配付され、説明があった。また10月16日 Mission のマーシャル氏と懇談する機会を持ったことが報告された。

(5) フィリピンの Batanes 文化的景観 Evaluation Mission の派遣：黒田乃生氏（筑波大学）に、11月下旬に派遣されることが承認された。

(6) 法律財政問題委員会報告：法律・財政・行政問題に関するISC-パツファゾーンに関する広島会議が2006年11月27～30日に開催される。河野委員から日本イコモス名でACCUに申請し、採択されたと報告があった。広島会議の共催について承認された。

(7) 立命館大学 歴史都市防災研究センター「文化遺産危機管理国際研修2006」による共催名義の使用許可申請について承認された。

(8) 新公益法人制度に伴う日本イコモスの対応：NPO法人は日本イコモスが世界のイコモスのブランチと見られることから、NPO法人はなじまない。財団法人はかつて5億円以上の基本財産が必要だったが、法改正によって300万円以上で可能となっている。現在基金は1,225万円なので十分であり、法人格をめざすことが承認された。

(9) 日本イコモス国内委員会次期役員を選任について：矢野事務局長から、現在理事には役割分担がなされているが、必ずしも明確でないので再度役割の議論が必要ということ、また理事を補佐するメンバーを創設することが提案された。

(10) 来年2月ミラノで開催の第3回「修復博覧会」参加募集の案内があった。

(11) パリ本部から Call for expressions of interest in hosting the ICOMOS Advisory Committee 2007 の連絡 (e-mail) があったことが通知された。

(12) 日本イコモス国内委員会の名刺の台紙作成を作成しようという提案があった。



(13) 次回理事会の会期と会場： 役員選挙のための臨時の理事会が、以下の日程で開かれることになった。

2006年11月25日(土) 13:30 ~ 15:30

日本イコモス事務局 (文化財保存計画協会)



Ploud:Vのつ

イラスト (全て) / 前野まさる

ICAHM の日本語訳について

2006年11月20日

ICAHM Voting member 小野 昭
Associate member 岸本雅敏

近く開設される日本イコモスのホームページにISCを紹介いただけるとのこと、嬉しく思います。つきましては、ICAHMの日本語訳表記について下記の通り、承認願います。

記

「ローザンヌ憲章」を文中で紹介しました。その英文表記は以下の通りです。

“Charter for the Protection and Management of the Archaeological Heritage”

私たちは、それを以下のように日本語に訳しました。「考古遺産の保護と管理に関する国際憲章」一方、『文化遺産保護憲章 研究・検討 報告書』（日本イコモス国内委員会 憲章小委員会 1999年）では、以下のように訳されています。「考古学的遺産の管理・運営に関する国際憲章」原文では“Protection”と“Management”、この二つが重要なキーワードとなっています。けれども、小委員会の訳では「管理・

運営」となっているため、「管理」と「運営」がその二つの英単語の日本語訳に相当するかのような誤解を与えかねません。ちなみに、小委員会の訳註は以下の通りです。

「管理・運営」をmanagementの訳語として使用した。研究会においてもこの訳語は「管理」か「管理・運営」かで意見は分かれたが、ここでは「管理・運営」を使用した。以下の文でも同様としている。

以上から明らかな通り、これは“management”にいかなる日本語訳をあてるかの議論であって、もう一つの重要なキーワード“Protection”の日本語訳が欠落しています。したがって、憲章小委員会による訳は、ローザンヌ憲章の二本柱である“Archaeological Heritage”の“Protection and Management”のうち、後者を強調する不適切な訳となっています。そこで私たちは今回、この2語を「保護と管理」と端的に訳したわけです。さらに、今回の原稿中で“Archaeological Heritage Management”と日本の「埋蔵文化財」との関係についても簡潔にふれておきました。日本イコモス国内委員会では、憲章小委員会による以上のような日本語訳の経過もあって、“International Committee on Archaeological Heritage Management”の日本語をこれまで「考古遺産管理運営国際委員会」と表記してきましたが、今後は「考古遺産管理国際委員会」と表記することを提案するとともに、これを承認願います。

■ 日本イコモス国内委員会ホームページ開設に伴って、ISCの紹介原稿を関係委員から募集したところ、上記の提案が小野昭委員から本年11月25日の理事会でなされ、承認された。その他の訳語についてその後理事会で議論されたが、ISCについてもさまざまな訳語があり、もともとInternational Specialized CommitteeのSがScientificになってしまったという指摘がされている。したがって国際専門分科会など本誌でもそう表記してきた。本年10月10日付けのバリICOMOS本部のホームページをみると仏英語ともにSCIENTIFIQUES、SCIENTIFICとなっている。しばらく議論した結果、基本的にISCと略語で表記し、日本語訳として「国際學術委員会」とすることが理事会で了承された。

文化的景観 ISC イコモス・イフラ
(INTERNATIONAL SCIENTIFIC COMMITTEE CULTURAL LANDSCAPES ICOMOS- IFLA) の報告

杉尾伸太郎

2006年10月5日イタリアのマッジョレ湖畔にあるベルバニアにおいて、同年4月ポルトガルのコインブラに引き続き上記委員会が開催されたので報告する。

会議は「ヨーロッパに於ける湖畔庭園」と題するシンポジウムを中心に様々なイベントに呼応して開催されたものである。即ち5日が当会議で、6～7日がシンポジウムの発表と討論、8日が世界遺産クラスのイソラ・ベラをはじめイソラ・マードレ、タラント荘、サレミジオ荘の見学会であった。

今回の出席者はASLAおよびIFLAの大会と日程が全く同時となったため、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなどが不参加となったのは残念であったが、魅力的な場所のせいか18ヶ国の参加があった。

日本のイコモス国内委員会からは杉尾がポーティングメンバーとして、またアジア・オセアニア地区の副会長として参加した。

イタリア（会長）、アルゼンチン（副会長）、イギリス（副会長）、スペイン（副会長）、オーストリア、ベルギー、チェコ、フランス、ハンガリー、メキシコ、ポーランド、ポルトガル、イラン、デンマーク、トルコ、スウェーデン、フィンランドの国々から24名が出席し、例年に比べ盛大であった。

さて、今回の議題の中心は、この委員会の「規則の最終承認」についてである。

特に名称から、歴史的庭園の文字を消し文化的景観にしたことについては当委員会の創設者である故ルネ・ベシエール氏のネーミングでもあり残念との意見もあったが規則の目的の中に「公園及び庭園」を入れることで原案どおり決定した。

なお、今後、この委員会の全ての文書はブリュッセルにあるルネ・ベシエールのアーカイブスが保存することとなった。

ホームページの作成に当たり資金が不足とのことで私を含め有志で約500ユーロをその場で集めスタートした。

また、危機に瀕する庭園・文化的景観としてはイタリアからはプラトリーノ庭園、メキシコからは15世紀の植物園、アル

ゼンチンからはブエノスアイレスの旧市街区、スペインからコルドバ近郊のアラブ時代の遺跡、エチオピアからはコプト教会とその周辺、イラン、パキスタンからも問題が提起された。

今後の日程は、9月22～23日にノルウェーでミーティングを行ない、引き続き24～25日にコンファレンスを行なう予定である。なお、2008年はカナダ、2009年は日本が開催予定国になっている。

考古遺産管理国際委員会 (ICAHM) :
西安総会以後の動き

小野 昭 岸本雅敏

西安総会で国際委員会ISCの大幅な改組が決定され、それに対してICAHMとしてどう対応するか、混乱が生じた。2006年1月末の段階で事務局のCh. Rivet (Canada) から各国ICAHMのVoting member, Associate member宛に連絡があり、1) 大幅に変更となった内容の要約と問題点のまとめ、2) 2006年2月に予定されている選挙にICAHMからISCにメンバーを推薦するか否かについて意見の聴取があった。

事務局提案が付されており、それは「2007年にICAHMの新執行部の選挙が行なわれるまで、1年間延期することでICAHMは対応することにしたい」との趣旨であった。多くのICAHMメンバーの意見を集約したところ、事務局提案が一致して支持された。新しく組織されようとしているISCのメンバーシップに対する不信と疑義は根強く、とにかく急がずに1年は様子を見ようとの判断をわれわれは下したことになる。

2006年春以降、ICAHM会長のB. Egloff (Australia) からも連絡は特になく、状況はそのまま推移している。この間、ICAHM独自の取り組みはほとんど進んでいない。ICAHM内に2004年に設置されたHeritage at Risk Subcommittee (責任者Marilyn Truscott, Australia) にわれわれは迅速に対応し、原稿を送ってあるが、このとりまとめも実現しておらず未発表である。



第15回国際木の委員会 (IIWC) 報告

伊藤延男 土本俊和 本田智子

この度、下記のようにイコモス国際木の委員会 (IIWC) がトルコ国において開催されました。日本からは、voting memberになっている伊藤延男の他、会員土本俊和、本田智子両氏が参加しましたが、東京大学大学院生で当時ウィーンに留学中であった津和祐子氏も参加されました。

ここにまず委員会の概要を記すとともに、出席した会員の個人的意見、感想等を掲載し、報告と致します。

【会議の概要】

1. 名称 第15回国際シンポジウム及び会議
2. 主題 なぜ歴史的木造構造物を保存するか?
3. 場所 イスタンブール、リゼ及びプリンス島
4. 期間 2006年9月18～23日
5. プログラム

9月17日 参加者到着

但し、伊藤は特別見学会に参加、市内の遺跡、旧教会等視察。だが、ある部分は次の日の見学場所と重複した。

9月18日 イスタンブール市内視察。旧港に沈没していたボートの発掘現場を見たほか、多くの木造住宅を(世界遺産緩衝地域内か)見る。すべて自然崩壊的破損甚大。モスクも一つ見学。ホテルに還って IIWC 会議。委員長 Michelmoreの再任と事務局長Tamponeの新任は昨年のメキシコ会議で決定されている由。副委員長に伊藤とリトアニアのGiedre Filipaviciene 女史(ヴィルニウス市都市開発局文化遺産課長)を委員長から指名。

9月19日 トプカピ宮殿見学(休日であったが特別にハーレム部分のみ見学)、ハギア・ソフィア見学。終わってホテルで市内保存事業の会議に出席。まだ事業の進め方、カネの配分等基本問題が固まっておらず、会議混乱。

9月20日 終日シンポジウム。伊藤は「文化遺産建造物を保護することと保存林を備蓄すること」、土本は「日本の善光寺を例とした歴史的木造建造物の持続可能な再利用」を発表。夕方はボートでボスポラス海峡巡航。

9月21日 早朝出発、国内便でトラブゾンまで。東黒海地域の伝統的木造建築見学。また岩窟のようなスメラ僧院も見学。リゼのホテルに宿泊。

9月22日 伝統的木造建築見学。総じてこの地方は山地で、場所によってはさながら椎葉村に行ったよう。夜イスタンブール帰着。

9月23日 プリンス島木造建築見学。この島は観光・保養地らしく、交通はすべて馬車。ここで目下売りに出ている大邸宅と狭い最大の木造建築(旧カジノまたはホテル、今改装中のため空き屋)を見学。

9月24日 解散。

【出席しての感想】

1. 委員会会議において、伊藤は、エゲル・西安プリンシプルにつき、いくつかの疑問があるので改訂を検討されたき旨、目下個人として会長に書翰を送っていること、並びに、さりながら、木の委員会としては新しいプリンシプルに適合する体制を整えねばならないことを主張しておきましたが、ミッシェルモア委員長には全くその気がないようでありました。彼の性格に拠るのでしょうか。改めて、タンポネ事務局長と連絡を取り合い、しかるべき行動を起こそうと考えています。
2. 見学はハギア・ソフィアをはじめ何でもありで、ありがたかったのですが、逆に考えればもっと問題のある木造に特定してじっくり調査、検討の機会をつくってもらいたいと思いました。例えば近年の地震で破損した建物を現地で見るとか、詳細な資料を提供するとかの配慮がほしいと思いました。シンポジウムでは構造の時間がありましたが、どうも構造屋さんが勝手にしゃべるといって一昔前の日本と同じではないかと思いました。近い将来、日本の耐震補強についてのきちんとした報告を出したいものです。
3. 総じてトルコの木造建築は4階ほどもあるのに、部材細く

(柱9cm角程度)、構造簡単(二つ割り程度の間柱、表は横板壁、内は木摺・モルタル壁)で、しかもキャンティレバー・出窓が好きですから、全く耐震的でないと感じられました。救いは、あまり大きなスパンのないこと、壁量が大であること、しかも木摺モルタル壁が意外にしっかりしていることでしょう。モルタルの強さは遺跡を見ても抜群で、そこにはローマ時代以来の伝統さえ感じられました。

4. 木造建築の年代は分かりませんが、多分百年前後ではないでしょうか。形式にほとんど変化がありません。見た限りでは、雨水の浸透による腐朽と、社会変化に伴う無人化、スラム化によって自然崩壊を待っている状態の家屋が大部分でした。(伊藤延男)

会議に先だって、旧市街で木造建造物群を見学しました。旧市街は二度目でしたが、今回はじめて木造に眼をむけました。木造のたかい集積度に驚きましたが、最初に見た修復済みの建物でやや違和感をおぼえました。キプロス島から来られた研究者も、この修復に疑問を持たれていました。外壁の木の仕上げなどは、多分に、木肌に関する文化的な感覚の差異によるでしょう。キプロスの先生は、日本への留学経験もあり、伝統的な日本建築を愛されておられました。このことは、ラルセン氏が、“Architectural Preservation in Japan”(ICOMOS International Wood Committee, 1994)のなかで、伊勢神宮に即して、「木の表面が絹のようになめらか」“the surface of the timber is as smooth as silk”(18頁)とした感覚に通じるだろうと思いました。

木の委員会でもとめられた項目の一つに木造のサステイナビリティとリユーズがあったので、信州善光寺周辺域の木造建造物に即して発表しました。現在すすめている、信州善光寺の境内にある院坊計39件の実測調査をふまえて、善光寺の院坊が木造建造物分として将来にわたって生きのびる上で、日常性のなかで聖なる価値がたもたれていくことが必要である、とむすびました。発表全体を通じて、木造への関心が世界的な関心であることを肌で感じることができました。

その後、黒海に面した街トラブゾンへて、リゼに向かい、急峻な地形に散在してたつ骨太の民家を見ました。澄んだ川の水と濃い緑に親近感をおぼえつつ、なぜ山にすむのか、

をかんがえました。それは歴史をしらないからである、との旨を柳田園男がしるしていたという記憶が私にあります。山村住居を調査し、その歴史を理解しようとしつつも、なぜ山にすむのか、という疑問にこたえられないのが実際のところでしょう。山にすむ訳は精神的なものである、という観点を、ブナ林の研究者から数日前にいただきました。山にすむ訳を究明する上でも、日常性のなかの聖なる部分を捕捉する必要がある、と今かんがえています。

最後になりましたが、今回の国際会議への参加をご指導いただいた伊藤延男先生、文化財保存技術協会の本田智子さん、ウィーンから参加された津和佑子さんに、たいへんお世話になりました。この場をかりて、お礼申し上げます。

(土本俊和)

平成18年9月末に開催された「The 15th International Symposium and Conference WHY SAVE HISTORIC TIMBER STRUCTURES? ISTANBUL, RIZE AND THE PRINCES ISLANDS 18TH - 23RD SEPTEMBER 2006」へ参加した。1週間の期間中、スケジュールは多岐にわたったが、特に印象に残ったことを感想として述べたい。

シンポジウム前日まではテクニカルツアーとしてイスタンブール内の主要な歴史的建造物の見学があり、また世界遺産として登録されている地域内の木造住宅の見学も行なわれた。世界遺産内のZeyreck地区のオスマントルク時代の木造住宅群は、現在は多数が低所得者層の住宅になっており、収入の問題から維持がむずかしい状態である。所々に見える駐車場は、近年増えた不審火が原因だそうであるが、同時に跡地を駐車場として収入の糧にするケースの増加に関する報告もあった。このことに関してイスタンブール市は何も手を打っていないと担当者へ面と向かって非難したトルコ専門家もいた。このような現状の中、イスタンブール歴史地域ではTurkish Timber Associationによる“Save our Roofs”キャンペーンによる建物の修復が行なわれており、その建物外観を見学した。このキャンペーンにより修復された建物はまだ数少ないが、今後の継続に期待できるものである。

トルコは現在、EU加盟を目指し中央集権から地方分権を進めている。そのためにイスタンブール歴史地域もトルコ政府



からイスタンブール市への権限の移譲が拡大しているとのことである。またこれに伴い、NGO、地元住民などの参画が拡大の一途をたどる。今まで門戸を開かずに行なってきたことには驚きであるが、と同時にこの関係者間の意志の疎通は最も急務であると思われた。会議途中でも紛糾の場面があり、またシンポジウム最後の質疑応答で「今後、市当局は継続してきちんと対応していくという確約がほしい」と述べた一般参加者に「貴方はどこかのNGOを代表しているのか」とイスタンブール市の担当者がつめよるシーンもあった。様々な多様性を内包した文化遺産であるからこそ、今後は拡大した関係者間で情報の共有、強いては「価値の共有」のため、足並みをそろえた横の繋がりというものを強化するためにコーディネータとしての役割をもった機関もしくは人材が必要であると強く感じた。

上記は、言葉にすることは簡単であり、また基本の中の基本であるとも思われるが、今回のイスタンブールでは、最もむずかしく、最も重要な役割だということを感じた。

(本田智子)



ついかい煙突

歴史的建築物の構造補強と解析に関するISC (国際学術委員会) ISCARSAH 活動報告

花里利一

1996年に第1回が開催されたISC (国際学術委員会) ISCARSAHも10年を経過した。昨年度は、委員長もローマ大学のクローチ教授からカタルーニャ工科大学のロカ教授に交代し、日本側委員も筑波大学日高教授から花里に代った。

この2年間に開催された委員会は、2004年10月のアテネ会議、2005年6月のバルセロナ会議、本年2月のキプロス会議である。

本年11月にはニューデリーで開催される歴史的建造物の構造関係の国際セミナーに合わせて委員会が開催されている。来年度は、4月頃にシカゴ会議が予定されており、2008年9月にはイコモス総会に合わせてカナダ・ケベックで開催される。日本での開催にも大きな期待が寄せられている。

ISCでは建築遺産の構造修復・保存と解析に関する指針を作成している。この指針は2001年9月の委員会で採択され、2003年に改訂された。委員会では、指針の各国語への翻訳と普及を活動方針に入れているほか、指針の見直しも進めている。各国語への翻訳については、すでに和訳を委員会および日本イコモス委員会に提出している。日本では、文化庁の重要文化財建造物耐震診断指針が歴史的建築物の耐震診断等に用いられているが、その内容およびISCARSAH策定の指針との対応を今後の委員会で報告することになっている。とくに、『木造』建築に関して日本に対する期待が大きい。

そのほか、委員会では、具体的な修復プロジェクトを委員会の活動に含めることにしているが、いまのところ対象は決まっていない。また、4つのワーキンググループ(地震、定量的評価、建設技術、安全)が活動しており、地震に関するワーキングには花里も加わることになっている。

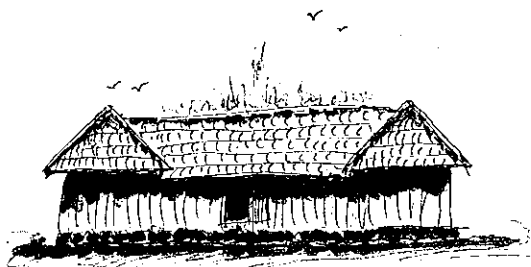
「西安宣言」1周年記念の国際シンポジウム
開催される

西村幸夫

昨年10月、中国西安で開催されたイコモスの第15回総会の最終日に採択された「西安宣言」の1周年を記念する国際シンポジウムが総会の開催地、西安において西安宣言が採択された10月21日をはさんで開かれた。参加者はマイケル・ベツェット会長、デニス・ブンバル事務局長など海外からの参加者約30人を含む約300人であった。中国国内の関係者の力の入れ方が目立った。日本からは国際イコモスの執行委員である岡田保良氏と西村とが参加し、それぞれ、イランの文化遺産の保護と国際協力、および日本の木造建造物のオーセンティシティと技術の伝承についての論文発表を行なった。日本からのこのふたつの発表のほか、14の論文発表と3つの基調講演があった。

中国側の西安宣言に寄せる期待は想像以上のものがあり、会議には中国の国家文物保護局の単霽翔局長が中国の大規模史跡の保護に関する基調講演を行なったほか、西安に設立することが決まった西安イコモス国際保存センター（IICC-X）の記念碑の除幕式も執り行なわれた。

西安宣言はご承知の通りセッティングの保全に向けた国際的な宣言であるが、日本にとっても重要な意義を持っており、今後どのようにその趣旨を体現していくかが問われることになる。なお、今回のイコモス総会開催地であるカナダのケベック市が西安宣言を市の保全施策として採択する事を決定したという報告がなされた。



San Antonio 9/22/06

文化遺産と都市開発の課題検討小委員会

主査 益田兼房

鞆は、現状では状況は厳しく、9月までの現内閣の間に問題解決のらちがあく可能性は低くなっています。白川は、久保田先生の熱心な地元への働きかけで、状況の好転が見えてきています。

鞆：6月20日に、地元の市民団体8団体が連合して、広島県知事・福山市長へ、1万3千名の署名と共に、客観的な検討の場の設置に関する要望書を提出しました。これに対して、県・市とも、港湾埋め立て架橋建設の方針に変更無く、今年度の埋め立て準備事業を粛々と進める方針を表明しています。

6月23日に、陣内秀信先生と国交省鬼頭港湾局長にお目にかかり、保存に向けての3度目の要請をしました。鞆の浦の国際的な価値認識の拡大状況報告、来年度には県と市から埋め立て許可申請書が国交省港湾局に提出されるのでそれへの慎重な対応のお願い、国交省側で専門家による総合的な検討の場の設置のお願い、などです。具体的回答はありませんでしたが、鬼頭局長は7月上旬の人事異動で省内のさらに上のポストに昇格されたので、次年度も経過を承知している高官が省内にいる状況となりました。

7月1日には、益田は福山市の市民団体「瀬戸内海を世界遺産にしよう会」の主催する地元での講演会で、鞆の一年以来の文化遺産としての国際的な評価、瀬戸内海地域の各種の文化財の価値の状況などについて報告し、地元が鞆の保存を進めることの重要性を強調しました。一方、小泉総理の私的懇談会である外国人観光推進専門家会議で、アレックス・カー氏やカロリン・フंक氏が鞆の破壊をやめるように発言し、政府の回答を求めていたのに対して、国交省総合調整局からの4行ほどの、観光資源の観点から開発と保存の調和が大切という趣旨の回答文書が出ました。これには、西村幸夫先生にも、ご尽力を頂きました。

7月10日には、地元の保存団体が国交省大臣官房観光担当審議官大西珠枝氏に面会するのと同行し、文化遺産



の価値の高さを説明しました。また、総合調整局の野田調整官に面会し、国交省として道路港湾事業と観光推進の調整の観点から要望し、上記の政府回答文書について真意を糺すのに、同席しました。野田氏によると、あの4行は、北側一雄国交大臣の気持ちを込めたものであるとのことでしたが、小泉内閣の終了・北側大臣の辞任とともに野田氏の調整官としての役割は低下する懸念もあります。

なお、最近の地元からの情報では、港湾埋め立ての調査に関連し、県事業を受託した福山コンサルタントが交通量調査を鞆の町並みでやっている、とのこと。一方、8月になってからは、崩壊が進行する町並みを守ろうと地元NPOでは「竜馬の家」修復事業で瓦募金を全国に訴えたり、スタジオ・ジブリの宮崎駿雄監督の鞆でのアニメ作成活動をNHKが取材する動きもあり、種々の情報発信が続いています。

日本イコモスとしては、現段階では、引き続き機会を捉えては学術的な価値の高さを強調する必要があると考えられます。

白川：小委員会では、メンバーである埼玉大学の地域交通計画の専門家である久保田尚先生を中心に、地元への世界遺産の価値に着目した理解を深める活動を続けています。7月19日には、東大都市工学科西村幸夫研究室で小委員会を開催し、今後の活動の仕方などについて検討しました。深刻化するモータリゼーションで、観光客の大型バスやマイカーが世界遺産地区内で大量に駐車し、地元住民のマイカーも動かせないほど混雑する状況を改善すべく、具体的な対策が必要となっています。この状況が続くと、外国人観光客のユネスコへの投書などで、危機遺産としての検討が起きても不思議ではない、という西村先生の指摘に、改めてイコモスとして深刻な責任を感じた次第です。2008年が世界遺産保存状況定期報告の年となるため、それまでに改善の方策を樹立し、2007年には交通問題についての国際的な集会を行なって、成果を国際的にアピールすることが必要という状況認識を共有しました。

これをもとに、久保田先生が8月17日にメンバーの大澤・萩原両氏と岐阜県にでかけて、地元の白川村教育長、産業課長、また高山国道工事事務所の方々と協議されました。

行政側としては、基本的な理解と認識は同じですが、今後とも地域住民の理解を深めていく努力をする必要性が確認されています。交通規制や社会実験などについて専門的な助言を求められており、日本イコモスにおける本小委員会としては今後とも世界遺産の保護について、必要な支援をしていく必要があると考えています。

(2006年8月25日記す)



Edinburgh 農村風景

お知らせ

事務局には、毎週本部をはじめとする海外の委員会や関係機関などから、情報メールなどが寄せられています。そのすべてをインフォメーション誌の紙面でご紹介する事はできないので、会員の方でメールの情報配信を希望される方は、「情報メール配信希望」とお書きになって、事務局のEメール (jpicomos@kb4.so-net.ne.jp) にご一報ください。

(2006.12.01事務局)

Quebec ICOMOS 2008 Scientific Committee より、2008年の国際ICOMOS総会のテーマについて、意見の募集

(添付ファイル送信をご希望の方は事務局までお問い合わせください)

23 November 2006

CALL for OPINIONS

Reflection on the theme of our 16th General Assembly and International Scientific Symposium Quebec ICOMOS 2008

According to the decision made by the ICOMOS Executive Committee in Edinburgh last September 18, 2006, it is our pleasure to invite you to contribute to the development of the scientific program of our next General Assembly and Scientific Symposium which will take place in Quebec, Canada, in 2008, to discuss issues related to the Spirit of Place. "Finding the Spirit of the Place" was chosen to be the theme of the Conference.

Attached is a short introduction to which we hope you will react by sending us a few notes describing your opinion, your concerns, your ideas on this theme. As Chair of a National Committee or of an International Scientific Committee, whatever the case, we expect you will send the invitation to your

members so this Call for opinions reaches all of our membership. All your comments will be used to establish the terms of reference of our next International Scientific Symposium.

Please send your comments no later than January 15, 2007, in English, French or Spanish to marie-claude.rocher@quebec2008.icomos.org. Texts should be no longer than 1 page or 500 words.

Participation in the planning of the most important event in the life of their organization is open to all members of ICOMOS. We hope this Call will be well heard and that you will feel inspired to reply.

Marie-Claude Rocher, Ph.D.

Laval University, Quebec

Coordinator

Quebec ICOMOS 2008 Scientific Committee

ICOMOS Advisory Committee President, John Hurd 氏より (2006/11/07)

Call for participation to ICOMOS members – ICOMOS Scientific programme on Global Climate change

Dear Colleagues,

Global Climate Change has emerged as an important topic for discussion by Conservation professionals.

The ICOMOS Scientific Council have opened discussions towards an ICOMOS scientific programme with an exploratory report supported by the ISC's, Polar Heritage, Earthen Architectural Heritage and Risk Preparedness, presented at the meeting of Scientific Council in Edinburgh, last month.

Interest in the topic is now growing.



There are many important scientists and professionals within the National Committees who are not members of the International Scientific Committee and those individuals who wish to be engaged in discussions on Global Climate Change are invited to communicate their interest to me, for forwarding to the Scientific Council in due course.

Please email to hurdcon@yahoo.co.uk in order to register individual interest in the Global Climate Change scientific topic. I will do my best to keep information flowing in this interesting research.

With best regards and many thanks,

John Hurd.

President ICOMOS Advisory Committee.

please respond to hurdcon@yahoo.co.uk

prepared to formally accept new applicants for membership. Information about the Committee, as well as criteria for membership are available in the attachments.

ICOMOS International Secretariat より

(添付ファイル送信をご希望の方は事務局までお問い合わせください)

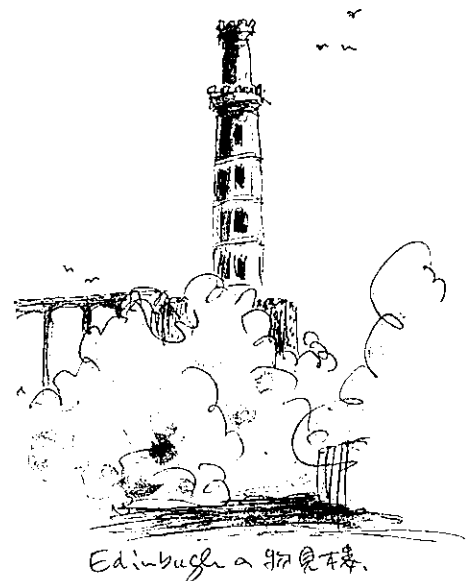
ICOMOS ISCEAH (International Scientific Committee on Earthen Architectural Heritage) - Invitation for Membership
For the attention of all the ICOMOS National and International Committees

12 July 2006

ICOMOS ISCEAH (International Scientific Committee on Earthen Architectural Heritage):

Invitation for Membership

In accordance with the Eger-Xi'an Principles adopted at the 15th General Assembly of ICOMOS, which took place in October 2005 in Xi'an, China, the International Scientific Committee on Earthen Architectural Heritage (ISCEAH) is



日誌 事務局

(2006年7月29日～11月25日)



- 7/30 三重県教育委員会事務局世界遺産特命監より、「世界遺産「紀伊山地の霊場と参道」パンフレット受領
- 8/04 (財)ユネスコ・アジア文化センターより、「[「無形文化遺産の保護に関する条約」]におけるコミュニティ参加に関する専門家会合」報告書(英文)、US/ICOMOSよりNewsletter no.1/2006を受領
- 8/07 事務局移転、東京都千代田区一ツ橋へ
- 8/16 ICCROMよりICCROM Newsletter no.32 June 2006を受領
- 8/27-9/3 第5小委員会:麓和善委員、Conservation of monuments in Ancient Plovdiv Reserve プロジェクトの開催する保存・修復研修コースに招聘され、Trainerとして参加のためブルガリアを訪問
- 9/04 (社)日本ユネスコ協会連盟より「ユネスコ」2006.9 vol. 1105を受領
- 9/7-15 前野委員長、ICOMOS Advisory Committee meeting、Scientific Council meeting 及び Meetings of National Committees in regional groups 参加のため英国エディンバラを訪問(日本からは他に岡田理事がExecutive Committee meetingに出席)
- 9/16 2006年次第3回拡大理事会開催(於文化財保存計画協会 会議室)【JAPAN ICOMOS INFORMATION】第6期11号発行、文化財工学研究所渡邊保弘氏より図録明治生命館を受領
- 9/27 (財)ユネスコ・アジア文化センターよりACCU NEWS NO. 357 2006.9を受領
- 10/16-21 イコモスによる石見銀山世界遺産登録の現地調査Evaluation Missionのためオーストラリア・イコモスよりDuncan MARSHALL氏が来日、前野委員長が全日程に同行
- 10/16 Duncan MARSHALL 氏歓迎の夕食会を国内委員会理事中心として丸ノ内で開催(11名参加)
- 10/22-11/03 日本イコモス国内委員会共催 立命館大学歴史都市防災研究センター「文化遺産危機管理国際研修2006」開催(於京都・立命館大学)
- 10/31 第6小委員会:京都市内にて白川村交通問題で会合を開く。ユネスコ世界遺産センターのジョバンニ・ポッカルディ氏、久保田委員、益田兼房主査が参加
- 11/01 第5小委員会:会議開催(於文化財保存計画協会 会議室)
- 11/03 日本イコモス国内委員会共催 立命館大学歴史都市防災研究センター「文化遺産危機管理国際研修2006」一般公開プログラム 文化遺産防災国際フォーラム「アジアの世界遺産を災害からどう守るか」に前野委員長出席
- 11/06 ICOMOS Thailand よりICOMOS Thailand Newsletter no.8、(財)ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所より文化遺産ニュース15号2006.9、(社)日本ユネスコ協会連盟より「ユネスコ」2006.11 vol.1106を受領
- 11/06-10 前野委員長、CIAV Annual Meeting 2006 参加のためメキシコを訪問
- 11/10 日本考古学協会より「平城宮跡地下の高速道路通過計画の再考を求める再度の声明」を受領
- 11/11-20 第5小委員会:石井主査及び前野委員長、Plovdiv 会議出席のためブルガリアを訪問
- 11/15 (財)ユネスコ・アジア文化センターよりACCU NEWS NO. 358 2006.11を受領
- 11/25 日本イコモス国内委員会、次期役員選任のための臨時理事会を開く(文化財保存計画協会 会議室)
- (11/27-30) 日本イコモス国内委員会・財団法人ユネスコ・アジア文化センター主催「世界遺産条約とバッファゾーンに関する国際会議」
予定 開催予定。会場:ホテルグランヴィア広島(27日:現地調査原爆ドーム、平和公園、鞆の浦。28日:イコモス会議。29日:イコモス会議及び一般公開 パネルディスカッション)

日本イコモス国内委員会 維持会員(代表者)

株式会社 尾田組(尾田芳信)	株式会社 鴻池組(大岩祥一)
株式会社 総合計画機構(糸谷正俊)	株式会社 都市環境研究所(矢嶋啓自)
株式会社 乃村工務社(乃村義博)	株式会社 ブレック研究所(杉尾伸太郎)
株式会社 文化財保存計画協会(矢野和之)	「国宝松本城を世界遺産に」推進委員会(有賀 正)
株式会社 トリアド工房(伊藤民郎)	西武建設株式会社(大澤茂治)
株式会社 京都科学(片山 保)	北野建設株式会社(北野次登)
株式会社 小林石材工業(小林美和)	

(敬称略・順不同)

日本イコモス国内委員会の活動には以上の企業のご支援をいただいております。

●日本イコモス国内委員会 理事会 JAPAN-ICOMOS EXECUTIVE BOARD

President	委員長	前野 まさる	Masaru MAENO
Vice President	副委員長	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
		町田 章	Akira MACHIDA
Secretary General	事務局長	矢野 和之	Kazuyuki YANO
Trustees	理事	赤坂 信	Makoto AKASAKA
		稲葉 信子	Nobuko INABA
		岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
		小野 昭	Akira ONO
		河野 俊行	Toshiyuki KONO
		田中 哲雄	Tetsuo TANAKA
		西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
		濱崎 一志	Kazushi HAMAZAKI
		日高健一郎	Kenichiro HIDAHA
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA
		宮川 朝一	Asaichi MIYAKAWA
		山田 幸正	Yukimasa YAMADA
		渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
Auditors	監事	沢田 正昭	Masaaki SAWADA
		西谷 正	Tadashi NISHITANI
Advisors	顧問	石井 昭	Akira ISHII
		伊藤 延男	Nobuo ITO
		坪井 清足	Kiyotari TSUBOI

小委員会 WORKING GROUPS

Chiefs	主査	藤井 恵介	Keisuke FUJII
		稲葉 信子	Nobuko INABA
		石井 昭	Akira ISHII
		益田 兼房	Kanefusa MASUDA

●国際諸委員会参加者 REPRESENTATIVES TO INTERNATIONAL COMMITTEES

Executive Member	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
Advisory Committee	前野 まさる	Masaru MAENO
Specialized Committee on:		
Archaeological Heritage Management	小野 昭	Akira ONO
	岸本 雅敏	Masatoshi KISHIMOTO
Analysis and Restoration	花里 利一	Toshikazu HANAZATO
	坂本 功	Isao SAKAMOTO
	西澤 英和	Hidekazu NISHIZAWA
Historic Towns and Villages	福川 裕一	Yuichi FUKUKAWA
	上野 邦一	Kunikazu UENO
Underwater Cultural Heritage	荒木 伸介	Shinsuke ARAKI
Training	稲葉 信子	Nobuko INABA
	工楽 善通	Yoshimichi KURAKU
Historic Gardens and Cultural Landscapes	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
	本中 眞	Makoto MOTONAKA
Vernacular Architecture	前野 まさる	Masaru MAENO
	大野 敏	Satoshi OHNO
Wood	伊藤 延男	Nobuo ITO
	本田 智子	Satoko HONDA
	渡邊 保弘	Yasuhiro WATANABE
Earthen Architecture	岡田 保良	Yasuyoshi OKADA
Cultural Tourism	宗田 好史	Yoshifumi MUNETA
	石井 昭	Akira ISHII
Legal Issues	河野 俊行	Toshiyuki KONO
Heritage Documentation	山田 修	Osamu YAMADA
Cultural Routes	杉尾 邦江	Kunie SUGIO
	大野 涉	Wataru OHNO
Stone	西浦 忠輝	Tadateru NISHIURA
	石崎 武志	Takeshi ISHIZAKI
Risk Preparedness	益田 兼房	Kanefusa MASUDA
Rock Art	小川 勝	Masaru OGAWA
	五十嵐ジャンヌ	Jannu IGARASHI



JAPAN ICOMOS/INFORMATION

Vol.6, No.12 09 DECEMBER 2006

日本イコモス国内委員会 委員長 前野まさる

事務局担当理事 矢野和之 編集 赤坂 信

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5 岩波書店一ツ橋ビル 13階

株式会社 文化財保存計画協会 気付

Tel & Fax: 03-3261-5303 e-mail: jpicomos@kb4.so-net.ne.jp

JAPAN-ICOMOS National Committee OFFICE

c/o Japan Cultural Heritage Consultancy

Hitotsubashi 2-5-5-13F, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0003, Japan

Tel & Fax: +81-3-3261-5303 e-mail: jpicomos@kb4.so-net.ne.jp